

石原

Satoru
ishihara

理

相い
しゆりたん
怜々
菟集譚



怜々鬼集譚 ◆ 目次 ◆

其は怜々の雪に舞い

005

狐火の女

137

レトロでいこう!

181

月の雫

183

其は怜々の雪に舞い—鬼と朧月夜—

205

あとがき

249

其は怜人の雪に舞い

赤い椿を携えた一人の男が、日本橋界隈の路上を歩いていったことになる——

……その男の話が確かであれば、大正も終わりのとある雪の晩



どなた
ですか

こんな
夜更けに

ひとく
喰いの悪鬼のように、
赤い花弁をまき散らしながら――



俺だ
鳥鷺だ

ここを
開けてくれ
乙貝

雪に舞い

ゆき

ま



其は怜人の



其は恰々の雪に舞い



おーい

おおーい!!

だめだ
駐在さん

この雪じゃ
こっちまで
遭難しちまう

良くやって
くれた

皆、小屋へ
戻ってくれ



奥さん
すまねえ

今晚は
あきらめてくれ

雪があがったら
必ず烏鷲の
旦那を
見つけ出すよ





入れるものか

一っ体
何しに来た



ここを
開ける
乙貝

俺だ
烏鶯だ



君が
俺にした仕打ちを
忘れたわけじゃ
あるまい

高尾山の
寒椿だ

お前の庭に
生きたい

帰れ!

俺に逆らえるのか

開けろ
乙貝

帰れ……

帰ってきてくれ……

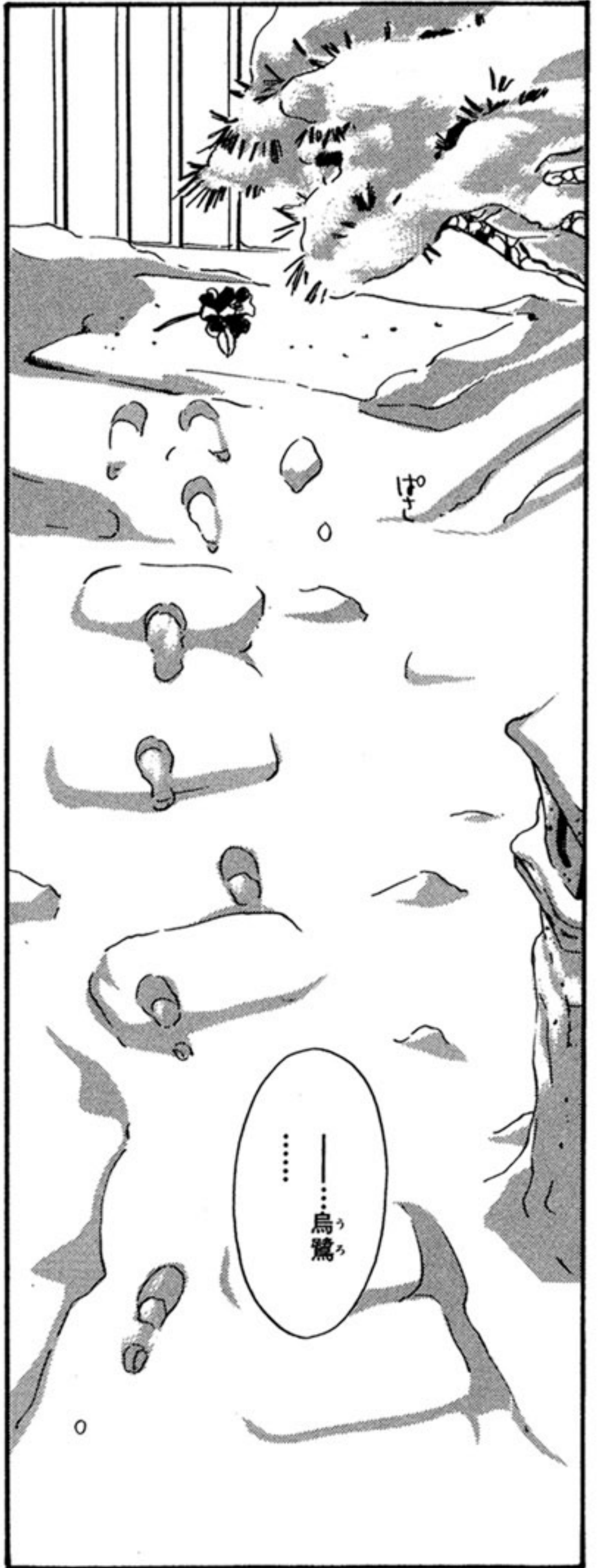
ほさ

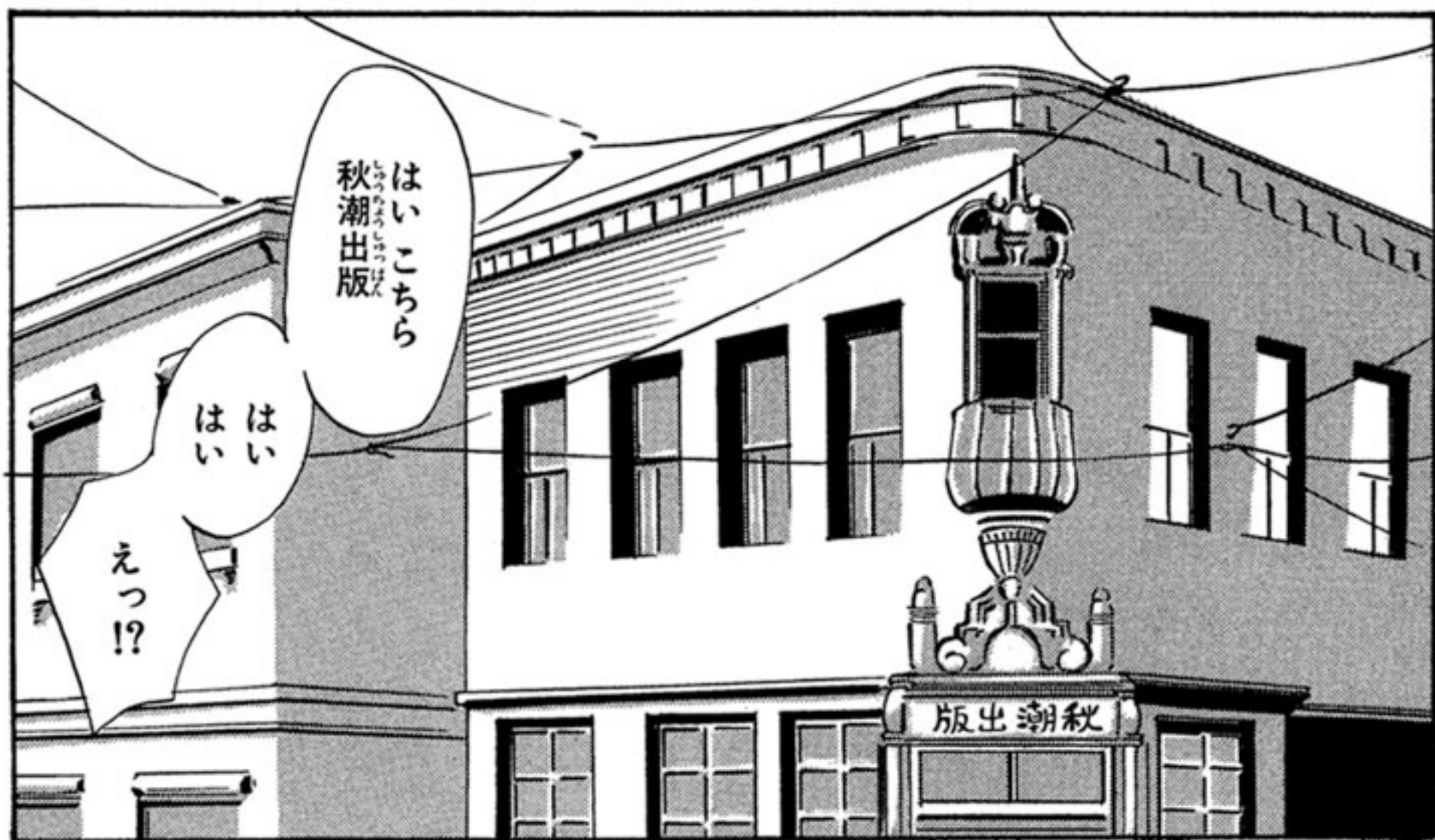


かたかた
かた

かた







はいこちら
秋潮出版

はい

えっ!?



早くに誰か
行かせる!

分かった
ばかもん

お前は
そこを動くな!



他に
奪られるな!

乙貝紅葉宅だ
急げえ!

南い!!

はいっ

2年前
雪山で失踪した
烏鷺公外の
新作が見つかった!



失踪中の鬼才
烏鷲公外の
新作が

同業者
乙貝紅葉宅で
発見された!

真贋のほどや
如何!?

さあ
買った
買った!
買った!



いやあ
大変な
騒ぎだねえ



南君は
「渦中の人」
だろう

どうだい
感想は

やめて下さいよ
出泉先生

ぼくは件の
原稿を
取りに行った
だけで



日がな一日
新聞屋に
つけ回されて

はっは
辟易と
している
わけか

道理で目線の
落ちつかない



乙貝紅葉と
いう人は
音に聞こえた
美形だそうだね

そちらばかり
評価されるのを
嫌がって

表に顔を
出さない
とか



ええ
まだ若いのに
世捨人のような
生活で――

先生は
乙貝氏と
烏鷲氏の
醜聞を
ご存知で？

チーン
チーン

烏鷲氏が
乙貝氏から
公美子婦人を
奪い取ったという
あれですか？

うん 確かに
原稿を預け合う
仲のようには
思えないねえ

それに
解せない事が
もうひとつ





ぼくは何やら
釈然とせず…



烏鷲氏が
失踪した
時分から

乙貝氏は
ぱったりと
筆を置いて
しまった

それなのに
いきなり
今回のこと
ですから



な
なんですか？

私をそんなに
挑発して



へい
タクシー

世間話を
しただけ
です!!

出泉
先生っ!!

円タクは
ハイニサ
サの下さっ!!



何かと思えば
要するに
一人で乙貝氏の
処へ行くのが
嫌なのだろう

えっ!?

安心して給え
私が同席
しようじゃないか

えっ!?



はい
—…ああ
南君



早かったね…



あ、おと
乙貝先生…
もしや
お取り込み中
では…

別に…



そちらは？

出泉
七朗画伯
です

挿絵で
食べてる
貧乏画家で



もしも
申し訳
ありません

何君が
謝ることは
ない

それに本人
悪気は
無いようだ



恥じ
入ります



ああ
ああ
大衆受けする
艶婦を描く
あの



あらあ
先生

さかえ



清廉な人物と
聞いていたが

うわさとは
少々趣が
違うようだ

あれは
女物の
襦袢だね

昼間だと
言うのに
板戸も閉じた
ままですね



アラ
出泉
せんせ

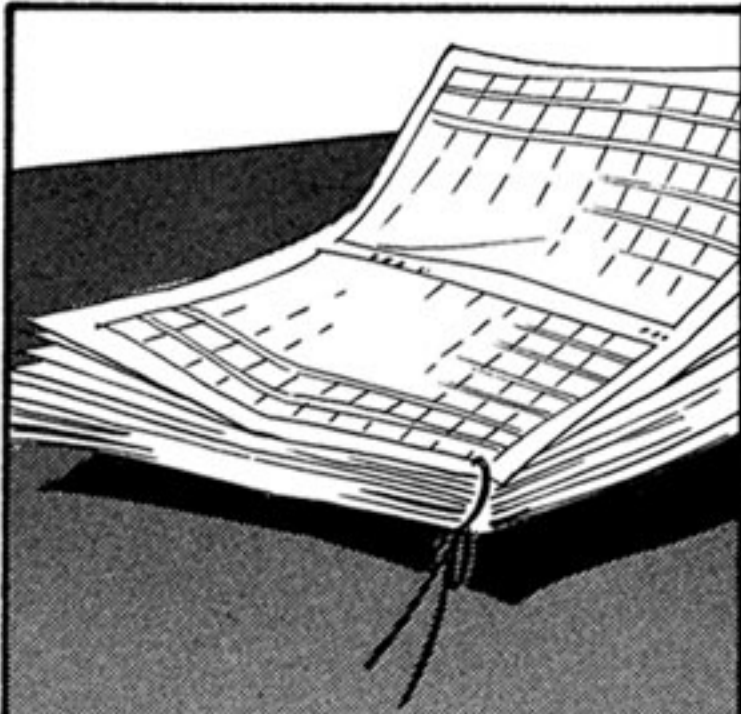
こんど
寄って
下さいましな



見
て
の
通
り
客
だ
帰
っ
て
く
れ

お
や
お
や

先
生
が
襦
袢
を
返
し
て
く
れ
な
す
っ
た
ら
ね
え



取
り
ち
ら
か
っ
て
ま
す
が
ど
う
ぞ



悪
気
が
な
さ
す
ぎ
る
と
し
よ
う
か
ど
う
で

ま
っ
た
く
だ
ね
え

あ
ま
た
も
と
す
ま
い

ガ
サ



烏鷲公外の
未発表作が
またみつかり
ました

そちらで
お引き取り
下さい

えっ



烏鷲が
何を意図して
我が家に
作品を隠して
回ったのか

それは
不明ですが



乙貝先生

はあ…
しかし…



まず
横暴な男
ですから

兎に角
ぼくは
奴の一切に
無関心です

あとはどうなと
お好きに
なすって下さい



おや
でも先程
烏鷲氏には
無関心だと
仰有った



無礼はぼくが
お詫びします！

おや

どうか
お掛け下さい

乙貝先...



かた

お帰り
下さい



乙貝先生！